

兵庫県立健康科学研究所

## 健科研リポート

Vol. 24

2022.8

Report of the Hyogo Prefectural Institute of Public Health Science

## 特集 ダニ媒介感染症対策を！！

TOPICS 県内におけるキノコの食中毒について

ダニが媒介する感染症に注意！



タカサゴキラマダニ  
(*Amblyomma testudinarium*)  
兵庫県立健康科学研究所 撮影

## ダニ媒介感染症とは

ダニ媒介感染症とは、細菌やウイルスなどの病原体を保有しているダニに咬まれることにより起こる感染症のことです。主なダニ媒介感染症には重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome：SFTS）、日本紅斑熱、つつが虫病、ダニ媒介脳炎、回帰熱、クリミア・コンゴ出血熱といった種類があります。

今回は感染症法で 4 類感染症の全数把握疾患に指定され、県内でも発生が見られる SFTS、日本紅斑熱、つつが虫病について紹介します。

## 症状

## (1) SFTS

SFTS はブニヤウイルス科フレボウイルス属の SFTS ウイルスを保有するマダニに刺されて感染します。また、SFTS ウイルスに感染している猫や犬にかまれたり、血液等の体液に直接触れたりすることにより感染する可能性も示唆されています。

6～14 日の潜伏期を経て、主な症状として発熱、消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血）を伴い、ときに腹痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などがみられます。致死率は 10～30% 程度とされています。

(2) 日本紅斑熱

日本紅斑熱は紅斑熱群リケッチアの 1 種 (*Rickettsia japonica*) を保有するマダニに刺されて感染します。

2~8 日の潜伏期を経て、主な症状として発熱、倦怠感、頭痛を伴い、主要三徴候として発熱、発疹、刺し口がほとんどの症例にみられます。

(3) つつが虫病

つつが虫病はつつが虫病リケッチア (*Orientia tsutsugamushi*) を保有するツツガムシに刺されて感染します。

5~14 日の潜伏期を経て、主な症状として 39℃ 以上の高熱、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、悪寒を伴い、その後数日で顔面や体幹部を中心に発疹がみられます。

県内の発生状況について

2013 年 1 月 (SFTS は 3 月) ~ 2022 年 6 月までに報告された兵庫県の患者発生状況を図 1 に示します。

SFTS は、初の国内発生が報告された 2013 年に、兵庫県においても 2 名の感染が確認され、その後、散発的に患者報告があり、2022 年 6 月までに 7 名の届出がありました。

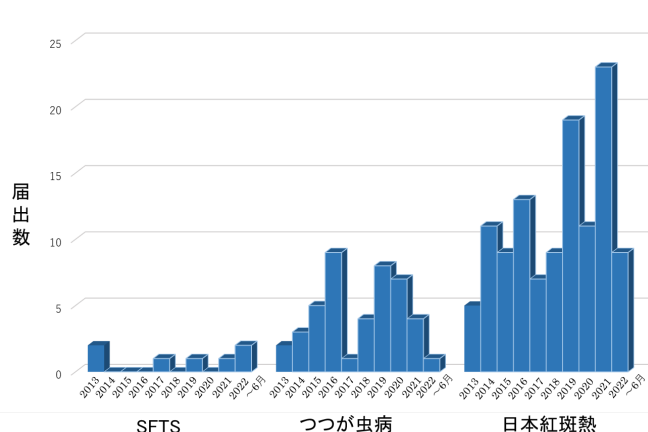


図 1. 兵庫県の患者発生状況

つつが虫病は、年間 1~9 例の報告があり、11~12 月が多くなっています (図 2)。2013~2016 年は 7~9 月にも患者報告がありましたが、2017 年以降、夏季の報告はありません。

日本紅斑熱は、年間 10 例前後の報告数で推移していましたが、近年増加傾向にあり、2019 年は 19 例、2021 年には過去 10 年で最多の 23 例が報告されました。患者報告数は 5 月から増加し、9~10 月が多くなっています (図 3)。

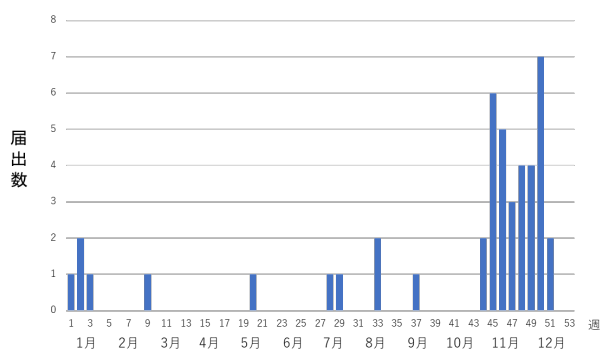


図 2. つつが虫病の週別届出数 (2013 年~2022 年 26 週)

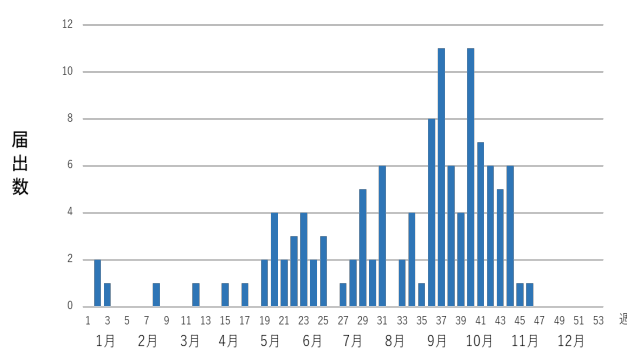


図 3. 日本紅斑熱の週別届出数 (2013 年~2022 年 26 週)

## 当所での検査状況について

当所では、PCR 法による病原体の遺伝子検出検査を実施しており、つつが虫病と日本紅斑熱については間接蛍光抗体法による血清抗体価の測定も行っています。

2014～2021 年の 8 年間に、日本紅斑熱、つつが虫病、SFTS の疑い患者、それぞれ 140 名、88 名、82 名の検査を行い、44 名、17 名、2 名の陽性を確認しました。つつが虫病陽性であった 17 名は、検出された遺伝子の塩基配列及び抗体価から、10 名が Kuroki 型、6 名が Kawasaki 型、1 名が Karp(JP-1)型の感染であることが判明しました。Kawasaki 型の患者は県北部、Kuroki 型は南部を中心に確認されています。

SFTS ウイルスは 2019 年と 2021 年にそれぞれ 1 名から検出されましたが、両ウイルスとも J1 遺伝子型に分類され、2013 年に県内で初検出された J2 遺伝子型とは異なっていました。



検査で使用する分析機器（左：DNA シーケンサー、右：蛍光顕微鏡）

## 感染しないために

ダニ媒介感染症には有効なワクチンがないものが多く、感染対策としては媒介ダニの刺咬を防ぐことが極めて重要となります。また、発生時期や発生状況を知り、野山や森林などダニが生息するような場所に無闇に立ち入らないことが重要です。

農作業や森林作業等やむを得ず立ち入る際、レジャー等で立ち入る際には

- ・ 長袖、長ズボンを着用し、肌の露出を極力避ける
- ・ ダニ忌避剤を使用する
- ・ 野山や森林に立ち込んだ後は早めに入浴し、ダニの付着について確認を行う

ことが大切です。また、ダニの付着を発見した際には無理に触ったり、除去したりなどはせず、早急に医療機関を受診してください。

## TOPICS 県内におけるキノコによる食中毒について

毒キノコを原因とする食中毒は、全国で毎年のように発生しています。兵庫県においては、平成 24 年～令和 3 年の 10 年間で合計 10 件（患者数 23 人）発生しています（下表）。毒キノコには食用のキノコと外観が似ているものもあり、素人が種類を見分けることは困難です。食べられる種類か分からないものは絶対に食べないようにしましょう。また人からもらったキノコで食中毒が発生した事例もあり、安易に人に譲渡したり、譲り受けたりしないようにしましょう。

当研究所では、キノコ毒成分の分析法の研究を行っており、これまでに毒キノコであるカキシメジやドクササコ中の有毒成分の分析法を開発しました。キノコによる食中毒発生時には、トリプル四重極型高速液体クロマトグラフ質量分析計（LC-MS/MS）を用いて、有毒成分の分析を行っております。

兵庫県内で発生した毒キノコを原因とする食中毒発生事例

発生年	発生月	毒キノコの種類	患者数(人)
令和3年		(事例なし)	0
令和2年		(事例なし)	0
令和元年	11月	カキシメジ	1
平成30年	9月	ツキヨタケ	2
平成29年	10月	クサウラベニタケ	2
	10月	クサウラベニタケ	2
平成28年	10月	オオシロカラカサタケ	1
	11月	ドクササコ	2
平成27年	10月	ツキヨタケ	3
平成26年		(事例なし)	0
平成25年	10月	ツキヨタケ	4
平成24年	10月	ツキヨタケ	4
	10月	ツキヨタケ	2



カキシメジ



ドクササコ

(写真提供 兵庫県立農林水産技術総合センター  
森林林業技術センター)

### 健科研リポート バックナンバー

過去の健科研リポートはホームページからをご覧ください。

- ・ 第 23 号 温泉の成分分析・新型コロナウイルスの変異株について
- ・ 第 22 号 新型コロナウイルス検査
- ・ 第 21 号 感染性胃腸炎とは・フグによる食中毒



### 編集・発行

## 兵庫県立健康科学研究所

〒675-0003 兵庫県加古川市神野町神野 1819 番地の 14

TEL : 079-440-9090 FAX : 079-438-5570

E-Mail : [Kenkokagaku@pref.hyogo.lg.jp](mailto:Kenkokagaku@pref.hyogo.lg.jp)

URL : <https://web.pref.hyogo.lg.jp/iphs01/top01.html>

E-Mail アドレス、URL 変更しています

